

第三回全国老人ホーム施設長アンケート・ご協力のお願い

2015年度改定の議論は今が正念場

介護保険は3年ごとの見直しが定められています。2012年度の改定が行われたばかりですが、2015年度改定に向けた議論は、正に今が正念場です。

8月6日に、社会保障制度改革国民会議は、「確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋」として報告書を提出しました。現在開催されている介護保険部会は、この報告書に沿った形で議論が展開されるということです。この間、介護保険制度をはじめとする社会保障制度改革の議論では、「制度の持続可能性」のために「給付の効率化、重点化」がことさら強調され、国民にとっては負担増、利用者にとっては給付削減の内容ばかりが目立ちます。

こうした中で、「制度が持続」しても「国民生活が持続」しなくなることが懸念されます。今、求められるのは、2012年度改定をふりかえり、必要な改定はどうあるべきか、について現場の声をふまえた改定を行うことではないでしょうか？

21・老福連のとりくみについて

私たち「21・老福連」（21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会）は、憲法第25条と老人福祉法を守る立場で、自由闊達に語りあい、福祉の増進を目指して活動している老人福祉施設関係者の団体です。

今回お示ししているような、「全国老人ホーム施設長アンケート」は、2008年（回答数1718人）、2010年（1648人）にも実施し、多くの声を寄せていただきました。それを冊子にまとめ、厚生労働省をはじめ介護保険部会委員や関係機関、マスコミ各社へお届けし、合わせて懇談の資料として活用させていただきました。また、今回のアンケート結果については、速報版を作成し（11月中旬予定）、みなさまにお返しするとともに、ホームページで閲覧もできるようにいたします。

アンケートの中には、21・老福連の老人福祉のあり方についての主な主張についても、お示ししています。アンケートの趣旨をご理解いただき、みなさんのご回答と率直で忌憚のないご意見をお寄せ下さいますよう、よろしくお願いいたします。お忙しい中とは存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

21・老福連は、皆さんと共に「誰もが安心して老いることのできる老人福祉・公的介護保障制度」の確立をめざして引き続き奮闘する決意です。ご支援ご協力をお願い申し上げます。

21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会 （略称 21・老福連）

代表幹事 小野 ともみ（宮城）西岡 修（東京）廣末 利弥（京都）

〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町2の5の6の902

TEL 06-6770-1600 FAX 06-6770-1611

※ アンケートのご返送は同封の返信用封筒をご利用ください。

※ 集約の結果（速報版）については、みなさまに郵送にてお返しするとともに、21・老福連のホームページで公開いたします。

なお、アンケートは、今回の改定議論に資する資料となるように、9月末までに同封の封筒にてご返送いただきますようご協力をお願いします。

◆ 本アンケートの構成・内容 ◆

【1】 社会保障制度改革国民会議の最終報告についてお聞かせください

【2】 「介護の社会化」を目的に創設された介護保険制度の総括的評価についてお聞かせください

【3】 介護保険制度の骨格についてお聞かせください

- ① 負担について
- ② 要介護認定と区分支給限度額について
- ③ 特養の整備について
- ④ 施設の経営と職員処遇について
- ⑤ 自由記述 : 介護保険制度全般についてのご意見

【4】 12年改定での影響についてお聞かせください

【5】 最近の動向に関する意見をお聞かせください

- ① いわゆる特養の「内部留保」問題について
- ② 介護職員の「医療行為」について
- ③ 介護職員確保・育成に関する政策・制度について
- ④ 「地域包括ケアシステム」について
- ⑤ 自由記述 : 最近の動向に関するご意見

【6】 その他

- ① 21・老福連の主張について
- ② 自由記述 : 全体を通して



前回発行した「全国施設長アンケート、1648人の本音」
厚生労働省、介護保険部会委員にもお届けしました